

# 令和5年度 学校評価のお知らせ



芋煮会

地域の先生を招待して芋煮会をしました

山形県立楯岡特別支援学校 寒河江校

# 令和5年度 学校評価のお知らせ

山形県立楯岡特別支援学校寒河江校

## 1 令和5年度学校評価アンケートの実施について

### (1) 保護者アンケート「学校生活アンケート」

- ① 実施期間:令和5年11月18日(金)~24日(木)。
- ② 方法:アンケート記入後、厳封で提出いただき、教頭が開封して集計。
- ③ 対象者:12名
- ④ 項目内容:全10項目。経年の変動が分かるよう、昨年度と質問内容を継続。

### (2) 教員アンケート

- ① 実施期間、②方法:保護者アンケートと同様。
- ② 対象者:12名
- ③ 項目内容:全15項目。経年の変動が分かるよう、昨年度と質問内容を継続。各項目に個人評価と学校全体評価を設けている。

(3) アンケートの集計結果を運営委員会で考察、改善のポイントを職員会議で提案し、その後の学校経営に生かす。

(4) 結果は保護者に文書でお知らせするとともに、学校ホームページ上で公開する。

## 2 アンケート結果と考察 ※別紙集計結果参照

### (1) 保護者アンケート

- ① 回収率、回答率はともに100%。
- ② 4段階での全体の平均値は3.83で、昨年度(3.60)より高くなっている。
- ③ 各項目の結果は、以下により良好な評価と捉えることができる。
  - ・ 全10項目で、4(よく当てはまる)と3(やや当てはまる)を合わせた割合が100%。
  - ・ 全10項目で3.6ポイント以上。
  - ・ 昨年度と比較して、今年度は、1と2段階(当てはまらない)の評価がない。
- ④ 昨年度よりも低学年の児童数が増加し、児童の実態も大きく変化した状況であったが、全項目で昨年度よりポイントは上昇している。ただし、項目2、3、7、10は、昨年度より0.1以下のわずかな上昇であり、まだまだ改善の余地があると考える。

感染症対策の緩和により、校外学習や交流学习、授業参観などが今年度徐々に行えたことで、これまで継続して低いポイントだった項目4、9に関しては、昨年度よりも高評価を得ている。特に項目4は4.00と全保護者が4段階で評価をしている。

また、ここ数年低い傾向が続いており昨年度の評価時、重点課題としていた項目6は、意識的に保護者への進路情報の提供や進路研修会の開催により、大きく評価を上げている。

全体的に高評価を得ている一方、項目10については、全項目の評価点のなかで一番低い値であり、取り組み方について検討を行う必要がある。

### (2) 教員アンケート

- ① 全体の平均値は、昨年度に対して今年度3.47とわずかだが上昇し、良好である。
- ② 個人・全体とも各項目の結果は、以下により良好な評価と捉えることができる。
  - ・ 全項目で平均値が3.0以上。
  - ・ 1段階(当てはまらない)および2段階(あまり当てはまらない)と自己評価した教員がいるが、学校全体の評価としては、1段階、2段階の評価はない。

- ・ 15項目中、個人・全体とも前年比プラスとなった項目が16項目。特に、項目4、6、9、10、14の5項目については、個人、全体共に昨年度よりポイントをあげている。
- ⑤ 個人・全体とも前年比マイナスの項目は項目2、8、12、15の4項目であった。児童数が増加したことと、より学習環境の手狭さが際立ち、同時に児童が安全に適切な日常生活の指導を実施することが検討課題にあがっていることから、学習環境の確保および学習内容の工夫が課題と考えられる。また、感染症対策の緩和に伴い、行事の内容変更や他校への支援など、少ない教員で一人の教員が複数の業務を担うことで、業務の増加をもたらしている傾向があることは大きな課題である。

### 3 改善策

#### (1) 保護者アンケート

全項目の平均点(3.83)よりも低い項目について改善策を示す。

- ① 項目1(3.75)について
 

児童が楽しく元気に、何か新しいこと、自分がしたいことを思いっきりできる学校であることをより一層教員が自覚して日々の学習活動を行っていく。そのためには、継続して、一人一人の児童の思いを教員間で共有し、教員同士がアイデアを出し合った、より魅力ある授業実践を行っていく。
- ② 項目2(3.75)について
 

保護者から出されたニーズについて、個人で判断し対応するのではなく、学部の教員とも共有し、丁寧な回答をすることを全教員が心掛けることを再確認する。また、個別面談においては、今年度の学年度末面談より、従来30分だった面談時間を45分に延長し、保護者のニーズをしっかりと受け止め聞く姿勢を大事にしていくことを全教員が理解し共通して取り組んでいく。
- ③ 項目6(3.75)について
 

今年度は1年生の児童が多く、今後の進路について、見通しを持っていない方も多くいた。また、寒河江校は小学部だけの学校のため、中高では将来に向けてどのような学習をしているのか、保護者はどのように活動しているのかなど、情報が入りにくいという点も課題である。そうした点を踏まえ、今年度、大江校と合同でPTA進路研修会や寒河江校PTA事業所視察研修を企画し、概ね好評だった。また、進路だよりの発行や西村山地域の事業所情報の提供にも取り組んだ。今後は、寒河江校と大江校との児童生徒交流活動の実施や大江校の学習紹介、相談支援事業所と連携した進路情報の提供など、より一層精力的に取り組んでいく。
- ④ 項目10(3.67)について
 

学校だよりを地域公民館に掲示したりHPで紹介したり、学校の取り組みを広く地域に発信する一方、地域の方を先生にした学習活動も継続的に実施した。しかし、情報発信の多くが学校が所在する高松エリアに絞られていることで、1市4町の学区の全てには伝わっていない点が課題である。今後、学校見学会の実施や学区の教育委員会への情報発信、高松地区エリア以外からの地域の先生を招致するなど、幅広く学校での取り組みや児童の学習活動について、物的、人的な側面から情報の発信を一層広げていく。
- ⑤ 自由記述では、「担任が変わっても共通認識として同じ方向性、または対応して頂けると本人も混乱なく力をつけていけるのではないかと思います。」という御意見をいただいた。担任間の引継ぎとして個別の教育支援計画や個別の指導計画で取り組みをまとめ、引き継いでいる。しかし、どうしても結果が主となり、その過程となる手立てが不十分になっている。そのために、どのようなねらいのもと、この手立てで結果に導いたのかを、今年度から丁寧に記述するようにしている。また、全教員に手立てを引継ぎ次年度に活かしていくことを伝え対応することを促していく。

## (2) 教員アンケート

個人・全体共に昨年度より低いポイントだった項目について改善策を示す。

### ① 項目2について

保護者アンケートの結果とも関連するが、保護者のニーズを聞く場面や学校側の取り組みを伝える場面が連絡帳や個別面談時と限られていることで、十分に共有できていないと感じている教員が多い。個人では気づかないことも、他教員と共有することで、異なる気づきが生まれることから、授業づくりの日を活用し、児童について小集団で語る場を設け、保護者のニーズへの対応や学習活動の伝え方を、教員間で共有し対応するようにしていく。

### ② 項目8について

児童数の増加により、学習環境の手狭さは大きな課題である。限られた学習環境のなかで、高松小学校と定期的な打ち合わせを行い、使用できる教室や場所、安全に使用できるルールの確認などを行い、児童が伸び伸びと学習できる環境を今後も確保していく。また、教員の安全意識は高く、事故後の対応や再発防止の取り組みは迅速かつ周知徹底が常になされていた。養護教諭を中心とした児童の健康管理も十分なされており、大きく体調を崩す児童も今年度皆無だった。一方、給食指導など日常生活の指導面については、担任以外の教員も対応することが多く、一人一人の児童のねらいと手立てを共有する点において不十分であった。事例研究会を実施し、児童に合った取り組みを全教員が把握し実行することが必要である。

### ③ 項目12について

特別支援教育コーディネーターや巡回相談担当教員により、地域のセンター的な役割を担い取り組んでいる。学校公開や公開授業研究会の実施、相談件数や助言等は従来よりも増加し、成果をあげている。一方、一部の教員が取り組む事案も多く、個人によっては、不十分だったと感じるケースもある。これについては、一人一人の教員の実態を考慮し、今後に向けて校内校外の研修を通して個人の専門性を高めていく取り組みを継続して行っていく。また、対外的な取り組みについては、感染症対策の緩和により広げた取り組みが、さらに計画的、効果的なものになるように、今年度の振り返りを丁寧に行い検討していく。

### ④ 項目15について

働き方改革については、教員一人一人の空き時間の確保と小集団での学習活動の推進、会議の精選を行ってきた。空き時間については全教員が週内に一定の時間確保できるようになり、教材づくりや事務仕事に充てることができるようになっていく。一方、少人数の学校のため、一教員が複数の業務を担うことがあり繁忙期には業務が重複することもある。今後、これまで以上に個人が業務に充てることのできる時間の確保、校務分掌部内の業務の精選を校務分掌部長と共に行っていく。また、行事に関しては、従来のものに地域の先生の手を取り入れるなど、教員の負担を軽減する取り組みを一層推進していく。

### ⑤ 自由記述では、「オンライン研修の機会が増えたことで、自主的な研修をすることができている。学校としては、どんな研修が必要か考えて計画する。」「授業づくりの日によって授業や子どもの話をする場と時間ができて良かった。」「コロナが第5類になり、指導の仕方も変わる中で、職員が連携して体制を整えることができた。」など、教員の専門性向上、協働性に関して前向きな意見があり、今後もこの状況を継続していくことが必要だと思われる。

## 4 まとめ

### (1)「児童生徒にとって 来るのが楽しい学校」にするために

児童は学校生活を楽しみに登校し、充実した学校生活を送ることができている。また、教員側も児童の学校生活をより豊かなものにしようと、現状に慢心することなく、さらに工夫し改善していこうとする思いを感じることができる。特に今年度は、教員アンケート項目14のポイントが高評価である。日々の学習を充実したものにするために、教員同士が情報を共有し協働して授業づくりをすすめていくことができるチームワークが作られている。この関係性を継続しながら、児童の思いに応じたより魅力的な学習活動を今後も実践できるようにしていく。(保護者アンケート項目1、5、7、9、教員アンケート項目1、5、7、8、9、13と関連)

### (2)「保護者にとって 安心して任せられる学校」にするために

登下校時や面談、連絡帳や各種おたより等をとおして、児童の学習の様子や学校の取組みを伝えてきたことで、保護者の理解や協力を得ることができ、様々な学習を計画的にスムーズに実施することができている。

一方、進路情報の提供や進路指導については、今年度の取り組みを参考に、大江校と共同で行う進路研修会や居住地の施設見学の実施、事業所情報を分かりやすく提供していく。(保護者アンケート項目2、3、5、6、教員アンケート項目2、3、4、13と関連)

学習環境については、限られた施設を有効に活用し、児童が安全に学習できるように、日々の安全点検と問題個所発見時の迅速な対応、ヒヤリハットの集約と周知を全教員が徹底して行っていく。特に、

問題個所については即時対応を全教員が心掛けてコロナ禍でも感染症対策を行いながら、授業参観や学校行事、PTA行事等を実施することができた。学校における感染症対策について、保護者会の機会やお便り等をとおしてお知らせしてきたことで、安心してくださった方も多し。その反面、不安を抱えていた方もおり、より丁寧な説明や対応が必要と思われる。(保護者アンケート項目4、8、9、教員アンケート項目7、8、9と関連)

### (3)「地域にとって 信頼して相談できる学校」にするために

大江校と合同で行う西村山学区の公共施設での児童作品展覧会や高松小学校の児童および地域の方々との交流及び共同学習の取り組みについて、保護者の理解を得たうえで意欲的に取り組んでいる。地域の先生による学習活動も増えており、地域の資源と活力を取り入れた学校運営ができてきている。また、学校だよりを西部地区公民館に掲示したりホームページ上で公開したりするなど、地域への情報発信も行っている。

学区の幼稚園や学校等からの依頼に応じて、教員同士が協力して巡回相談に対応し地域の特別支援教育のセンター的機能の役割を果たすことができている。また、OJTの視点から場面に応じて教員がペアで対応することで、教員の専門性向上にもつなげている。

児童の教育活動では、地域の方を招待した芋煮会や交流活動、地域のごみ拾い活動などを計画的に取り組んだ。併設校である高松小学校との交流及び共同学習については、学年交流も実施し、これまで以上に密な交流をすすめている。(保護者アンケート項目10、教員アンケート項目12と関連)

### (4)「教職員にとって 働きやすく働きがいのある学校」にするために

教職員の同僚性が高く、連携・協力して協働性をもって業務に当たることができている。働き方改革の視点では、コロナウイルス感染症の対策緩和に伴い、様々な業務が従来の形に戻り、業務が増加していると感じている。教員の空き時間の確保や個人に業務が偏らないように共同して取り組む体制などを構築しているが、一層、業務の精選が必要である。継続して一人一人の教員の意見を聞きながら、即時対応できるように取り組んでいく。(教員アンケート項目14、15と関連)

# 令和5年度 学校評価保護者アンケート集計結果

山形県立楯岡特別支援学校寒江校

前年比+

番号	設 問	%				R5年度 平均	R4年度 平均
		4段階	3段階	2段階	1段階		
1	お子様は、学校に行くことを楽しく思っている。	75%	25%	0%	0%	3.75	3.44
2	学校や学級担任はお子様の教育について、よく話を聞いてくれる。	75%	25%	0%	0%	3.75	3.67
3	学校や学級担任は、お子様の学校での様子をよく伝えてくれる。	83%	17%	0%	0%	3.83	3.78
4	学習の足跡の掲示や参観の機会などが確保され、児童生徒の学習の様子が見える。	100%	0%	0%	0%	4.00	3.44
5	お子様にとって、適切な学習目標が設定され、学習内容が「分かる」授業になるように工夫されている。	83%	17%	0%	0%	3.83	3.56
6	学校は、お子様や保護者の願いに耳を傾け、進路希望の実現や進路情報の提供に努めている。	75%	25%	0%	0%	3.75	3.44
7	清掃や施設設備の整備がなされ、明るく機能的な学校環境になっている。	92%	8%	0%	0%	3.92	3.89
8	学校生活の安全が確保され、適切な健康管理・給食指導がなされている。	92%	8%	0%	0%	3.92	3.56
9	お子様にとって意義のある交流学习、学校行事、校外学習等の企画・運営がなされている。	92%	8%	0%	0%	3.92	3.67
10	本校の教育活動や児童生徒の活躍などについて、地域に情報発信されている。	67%	33%	0%	0%	3.67	3.56
						<b>3.83</b>	3.60

■ 4 よく当てはまる      ■ 3 やや当てはまる  
 ■ 2 あまり当てはまらない      ■ 1 当てはまらない

※1 アンケートの実施期間は、令和5年11月18日(金)から11月24日(木)まででした。

※2 10の質問項目に対し、4段階で評価していただきました。

( 4:よく当てはまる 3:やや当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない )

※3 アンケートの回収件数は、12件(12家庭中)でした。

# 令和5年度 学校自己評価(教職員アンケート集計結果)

山形県立楯岡特別支援学校寒河江校 前年比

番号	内容		%				4段階	3段階	2段階	1段階	R5 (平均)	R4 (平均)	
			0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
1	児童生徒が来たくなる、楽しい学校づくりをしている。 ※生徒指導・いじめ防止・ケース会も含む。	個人					50.0	50.0	0.0	0.0	3.50	3.60	
		全体					83.3	16.7	0.0	0.0	3.83	3.50	
2	児童生徒の教育について、保護者の声に耳を傾け、児童生徒の学習や生活上の課題を共有している。	個人					58.3	41.7	0.0	0.0	3.58	3.60	
		全体					66.7	33.3	0.0	0.0	3.67	3.70	
3	保護者に、共有した学習課題を中心に、児童生徒の学校での様子や成長した姿についてよく伝えている。	個人					33.3	66.7	0.0	0.0	3.33	3.50	
		全体					75.0	25.0	0.0	0.0	3.75	3.70	
4	学習の足跡の掲示や参観の機会等が確保され、児童生徒の学習の様子が見えるようにしている。	個人					66.7	33.3	0.0	0.0	3.67	3.20	
		全体					83.3	16.7	0.0	0.0	3.83	3.50	
5	個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・評価により、個に応じた「分かる」授業を実践している。	個人					18.2	81.8	0.0	0.0	3.18	3.20	
		全体					33.3	66.7	0.0	0.0	3.33	3.30	
6	児童生徒や保護者の願いに耳を傾け、進路希望の実現や進路情報の提供に努めている。	個人					36.4	54.5	9.1	0.0	3.27	3.00	
		全体					33.3	66.7	0.0	0.0	3.33	3.10	
7	清掃や施設設備の整備がなされ、明るく機能的な学校環境にしている。	個人					33.3	66.7	0.0	0.0	3.33	3.40	
		全体					41.7	58.3	0.0	0.0	3.42	3.30	
8	学校生活の安全が確保され、適切な健康管理・給食指導を行っている。	個人					58.3	41.7	0.0	0.0	3.58	3.80	
		全体					75.0	25.0	0.0	0.0	3.75	3.80	
9	交流及び共同学習、校外学習、学校行事等が、児童生徒にとって意義のある企画・運営になっている。	個人					50.0	50.0	0.0	0.0	3.50	3.20	
		全体					50.0	50.0	0.0	0.0	3.50	3.30	
10	学校や本校児童生徒の理解のための地域社会への情報発信がなされている。	個人					25.0	75.0	0.0	0.0	3.25	3.10	
		全体					50.0	50.0	0.0	0.0	3.50	3.30	
11	校内研究による授業改善や自主研修、OJTに課題意識をもって取り組み、専門性向上を図っている。	個人					33.3	66.7	0.0	0.0	3.33	3.50	
		全体					58.3	41.7	0.0	0.0	3.58	3.40	
12	授業研究会における助言や教育相談、学校参観等により、地域のセンター的機能を果たしている。	個人					27.3	63.6	0.0	9.1	3.09	3.40	
		全体					75.0	25.0	0.0	0.0	3.75	3.90	
13	小(上・下学年)・中・高の協力や情報共有のもと、児童生徒理解や教育課程で一貫性のある指導ができています。	個人					16.7	75.0	8.3	0.0	3.08	3.30	
		全体					41.7	58.3	0.0	0.0	3.42	3.30	
14	職員のチームワークのもと、連携し支え合い、協働性を発揮して学校運営がなされている。	個人					91.7	8.3	0.0	0.0	3.92	3.60	
		全体					91.7	8.3	0.0	0.0	3.92	3.60	
15	行事の精選や会議の運営等、多忙感や負担感の解消に向けた取り組み等の働き方改革を推進している。	個人					0.0	100.0	0.0	0.0	3.00	3.30	
		全体					0.0	100.0	0.0	0.0	3.00	3.50	
<span style="color: blue;">■</span> 4:よく当てはまる <span style="color: green;">■</span> 3:やや当てはまる <span style="color: orange;">■</span> 2:あまり当てはまらない <span style="color: red;">■</span> 1:当てはまらない											平均	3.47	3.43